日本政策金融公庫

技術の窓　№2597　　R5.2.27

カーネーション切り花の
香り保持に適した管理条件

切り花用のカーネーションには、芳香族化合物のオイゲノールを基調としたスパイシーな香り（オイゲノール系）の品種が存在します。しかし、切り花にすると香りがすぐに失われてしまうことから、香り保持期間の延長が課題となっています。そこで、カーネーション切り花の収穫後管理において、香りの発散に影響する要因を調査し、香り保持に適した管理条件を提示しました。

☆ 技術の概要

1．カーネーション切り花では、品質保持剤（エチレン作用阻害剤）による水あげ後、水を切らせた状態（乾式）による輸送が、収穫後の一般的な管理条件となっています。水あげ後に 1 日間の乾式輸送を想定して 24 時間水を切らせた条件（乾式管理）と、水あげ後も水に生けたままの条件（湿式管理）で香りの保持期間を比較したところ、湿式管理の方が 2 倍以上も長いことが明らかになりました（左図）。

2．湿式管理下であっても、夏季を想定した 28℃の高温下では、香り保持期間が 23℃よりも短くなりました（右図）。一方、10℃や 15℃の低温下では、23℃よりも長くなりました（右図）。このように、オイゲノール系カーネーション品種の切り花の香りの保持には、10～15℃の低温での湿式管理が適していることが示されました。

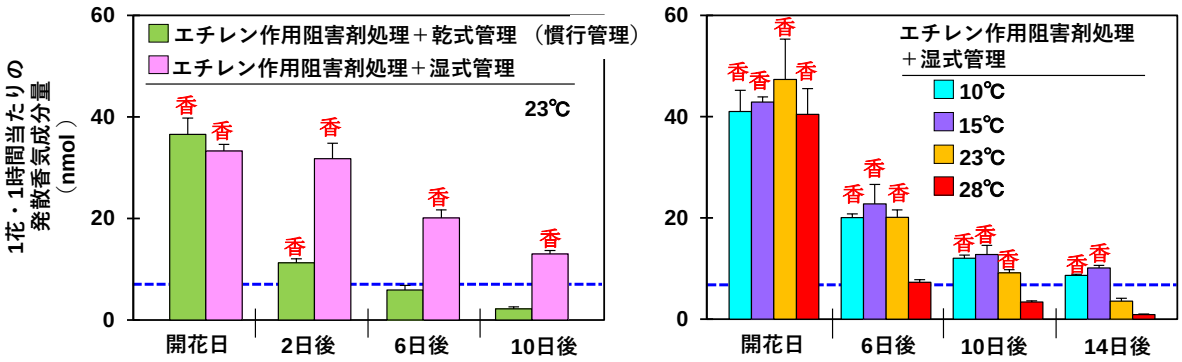

図 異なる管理条件においたカーネーション切り花の発散香気成分量の比較

品種は「ミルキーウェイ」。値は平均値（n＝3）、エラーバーは標準誤差。80 人の一般被験者が切り花の香りを「よく香る・香る・あまり香らない・香らない」の 4 段階で評価したとき、70%以上が「よく香る」あるいは「香る」と評価した発散香気成分量の下限を点線で示し、それ以上である場合を「香るために必要な発散量を満たしている」と定義して“香”で表示した。

☆ 活用面での留意点

詳細については、農研機構の成果情報をご覧ください。

https://www.naro.go.jp/project/results/5th_laboratory/nivfs/2021/nivfs21_s06.html

（農研機構 野菜花き研究部門　野菜花き品種育成研究領域領域　岸本久太郎）